

都市計画マスタープランの策定に向けて 『くまがやまちづくり 地区別ワークショップ』 を開催しました

ワークショップ開催報告 南部地域版

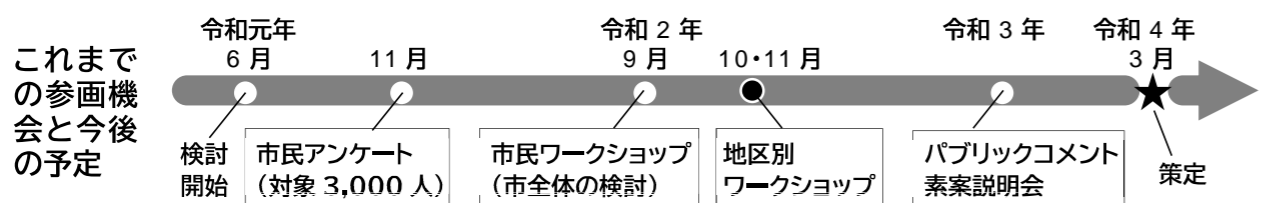
市では、都市計画やまちづくりを進めるための総合的な計画である『都市計画マスタープラン』の策定作業を進めています。将来のまちづくりに対する市民の皆さんの声を計画に反映するため、令和2年10月・11月に地区別ワークショップを開催し、延べ73名の方々に参加いただきました。この開催報告では、ワークショップの概要と市民のみなさまから頂いた意見の一部をご紹介します。

〈開催日時と参加者数〉

北部地域	令和2年10月31日(土)	妻沼中央公民館	参加者16名
西部地域	令和2年10月31日(土)	さくらめいと	参加者19名
中央地域	令和2年11月 3日(火)	商工会館(中央)	参加者13名
東部地域	令和2年11月 3日(火)	商工会館(東部)	参加者14名
☆南部地域	令和2年11月 7日(土)	江南公民館	参加者11名

都市計画 マスター プランとは？

概ね20年後を目指し、都市計画やまちづくりを進めるための基本的・総合的な考え方を定める計画で、土地利用、道路・交通、環境・緑・景観、住環境、防災などの分野が対象です。



① ワークショップの検討テーマ・手順

ワークショップは以下のテーマ・手順で検討を進めました。



② 南部地域で出された主な意見

将来の地域のまちづくりを検討していただき、以下のような意見が出されました。

地域の魅力と課題は？

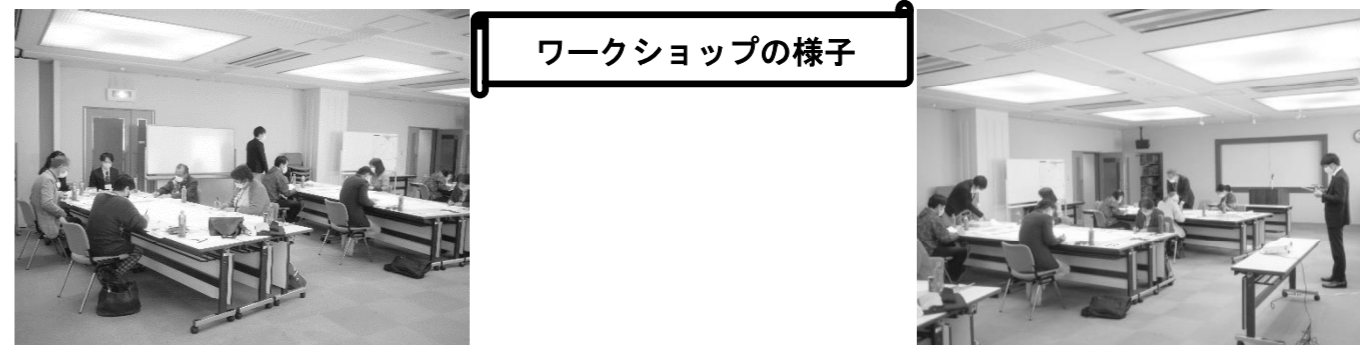
- 魅力
 - ・小江川の千本桜
 - ・濃密な地域コミュニティ
 - ・寺社仏閣、地域の伝統芸能(八木節) など
 - ・自然が豊か(清流、里山、丘陵地、農村風景など)
 - ・研究施設(立正大学、農業大学校など)、産学官連携のまちづくりに期待
 - ・都内への交通アクセス など
- 課題
 - ・高齢者世帯の増加、空き家対策
 - ・治水・地震対策(避難所が少ない)
 - ・地域医療が不十分
 - ・太陽光発電による森林伐採
 - ・商業施設がない、買い物難民の地区がある
 - ・公共交通の利便性が低い(バス本数が少ない、東西の交通網、車が無いと不便)
 - ・公園がない
 - ・道路が狭い、歩道がない、通学路の草が多い など

実施してほしい取組

- 魅力向上のための取組
 - ・地域資源の活用(伝統文化、祭り、神社寺院と連携したイベント)
 - ・自然の保全(農業遺産への登録、開発のルール作り、環境税で自然保護)
 - ・研究施設を通じた地域交流(大学の公園利用、市民向け大学講座、大学のカフェ利用)
 - ・若者に通信料のサポート(ハイテクサポート) など
- 課題解決のための取組
 - ・移住促進(農と自然のPR)
 - ・災害対策(ハザードマップの見直し、避難所整備、避難経路の見直し、河川整備)
 - ・太陽光発電の規制、開発のルールづくり
 - ・デマンド交通、ライドシェア
 - ・集落内のインフラ整備(道路や歩道の整備、自転車の安全性確保)
 - ・移動販売 など

地域の将来像

- 実現したい将来の生活(キャッチフレーズ)
 - ・丘陵地をはじめとした地域資源を保全、活用(里山の暮らし、グリーンツーリズム)
 - ・時間がゆっくり流れる、満たされるまち(バーベキューができる広場、子供も大人も楽しめる公園)
 - ・地域住民も移住者も活躍できるまち(移動がスムーズ、高齢者の活躍)
 - ・地域資源、施設を生かした交流
 - ・緑豊かな子育てしやすいまち(学校、福祉、警察、医療の連携で子育て、住民が交流できる会館)
 - ・緑とハイテク通信の熊谷



ワークショップの様子